



目次

I	概要	
1.	沿革	2
2.	事業所一覧	3
II	体制	
1.	組織・会議	4
2.	職員状況	5
III	運営報告	
1.	事業部全体	6
2.	各事業所	8
IV	地域貢献活動	21
V	令和8年度 事業計画	23

I 概要

1. 沿革

昭和 56 年 5 月 (1981)	精神障害回復者社会復帰施設「はまゆう寮」開所
平成 5 年 6 月 (1993)	沼津中央病院精神障害者共同住居「カーサかぬき」開所（家族会運営）
平成 9 年 4 月 (1997)	グループホーム「ふじみ」開所
平成 14 年 2 月 (2002)	田方・ゆめワーク開所（通所授産施設、地域活動支援センター）
平成 14 年 4 月 (2002)	「コーポ狩野」 福祉ホーム B 認可
平成 15 年 4 月 (2003)	地域生活支援センター「なかせ」開所 地域生活支援センター「いとう」開所
平成 16 年 4 月 (2004)	サポートセンター「ほっと」開所 グループホーム「ふじみⅡ」開所
平成 17 年 10 月 (2005)	「カーサかぬき」から法人運営としてグループホーム「カーサ岡の宮」開所
平成 18 年 3 月 (2006)	サポートセンター「ほっと」移転
平成 18 年 10 月 (2006)	障害者自立支援法に基づき各名称をサポートセンターゆめワーク・なかせ・いとうに変更
平成 20 年 4 月 (2008)	サポートセンター「いとう」伊東市観光会館へ移転
平成 20 年 5 月 (2008)	就労継続支援 B 型事業所「就労支援事業所かのん」開所
平成 21 年 4 月 (2009)	小規模作業所「ワークショップまごころ」開所
平成 22 年 4 月 (2010)	「ワークショップまごころ」就労継続支援 B 型事業所へ移行 従たる事業所「クリーム・ド・クオーレ」開所 サポートセンター「ほっと」移転
平成 23 年 4 月 (2011)	サポートセンター「なかせ」三島分室開所
平成 24 年 4 月 (2012)	「就労支援事業所かのん」事務所・作業所移転 通所授産施設「田方・ゆめワーク」就労継続支援 B 型事業所へ移行
平成 27 年 4 月 (2015)	サポートセンター「なかせ」長泉分室を長泉町役場内に開所
平成 28 年 3 月 (2016)	「コーポ狩野」新棟完成・移転、ケアホームコーポ狩野からグループホームコーポ狩野へ名称変更
平成 29 年 5 月 (2017)	サポートセンター「いとう」熱海駅前の熱海第一ビルに移転
平成 30 年 4 月 (2018)	サポートセンター「ほっと」富士市日乃出町へ移転 サポートセンター「なかせ」三島分室 2 階から 4 階へ移転 「ワークショップまごころ」同ビル 2 階に作業所増設
令和 元年 8 月 (2019)	グループホームコーポ狩野サテライト（フルール）開所
令和 2 年 4 月 (2020)	サポートセンター「なかせ」三島分室を組織改編、名称変更し、サポートセンター「ひまり」開所
令和 2 年 10 月 (2020)	サポートセンター「なかせ」自立生活援助事業開始
令和 3 年 3 月 (2021)	サポートセンター「なかせ」長泉分室閉所
令和 4 年 6 月 (2022)	グループホームコーポ狩野サテライト（フルール）閉所
令和 4 年 8 月 (2022)	グループホームふじみⅡ閉所
令和 5 年 4 月 (2023)	「サポートセンターいとう」から「サポートセンターりりぶ」に名称変更
令和 7 年 6 月 (2025)	「ワークショップまごころ」「サポートセンターひまり」三島市内へ移転
令和 8 年 3 月 (2026)	「グループホームふじみ」「サポートセンターほっと」閉所

2. 事業所一覧

本部

沼津市中瀬町 17-11

〒410-0811 TEL055-931-7032

FAX055-934-1697



相談支援・地域活動支援センター

サポートセンター

なかせ 沼津市中瀬町 17-11

TEL055-935-5680

FAX055-935-6150

りりぶ 熱海市田原本町 9-1 熱海第一ビル 2F

TEL0557-82-5680

FAX0557-82-5681

ゆめワーク 伊豆の国市田京 1259-294

TEL0558-75-5600

FAX0558-75-5601

ほっと 富士市日乃出町 165-1 サンミック静岡ビル 104

TEL0545-32-8160

FAX0545-32-8165

(令和 8 年 3 月末閉所)

ひまり 三島市青木 164-1 アカツキビル 102

TEL055-991-1180

FAX055-991-1181

共同生活援助

グループホーム

カーサ岡の宮 沼津市岡宮 612-1

はまゆう寮 沼津市中瀬町 17-11

ふじみ 富士市厚原 1138-6 ムーンビームス
(令和 8 年 3 月末閉所)

コーポ狩野 沼津市中瀬町 24-1

TEL055-933-1038

FAX055-933-3955

就労継続支援 B 型

かのん 沼津市中瀬町 19-20

TEL055-933-8500

FAX055-933-8501

(軽食・喫茶 花のん) 沼津市中瀬町 18-28

TEL055-933-8502

ワークショップまごころ 三島市青木 164-1 アカツキビル 103

TEL055-943-9990

(クリーム・ド・クオーレ) 三島市青木 164-1 アカツキビル 103

TEL・FAX055-976-9000

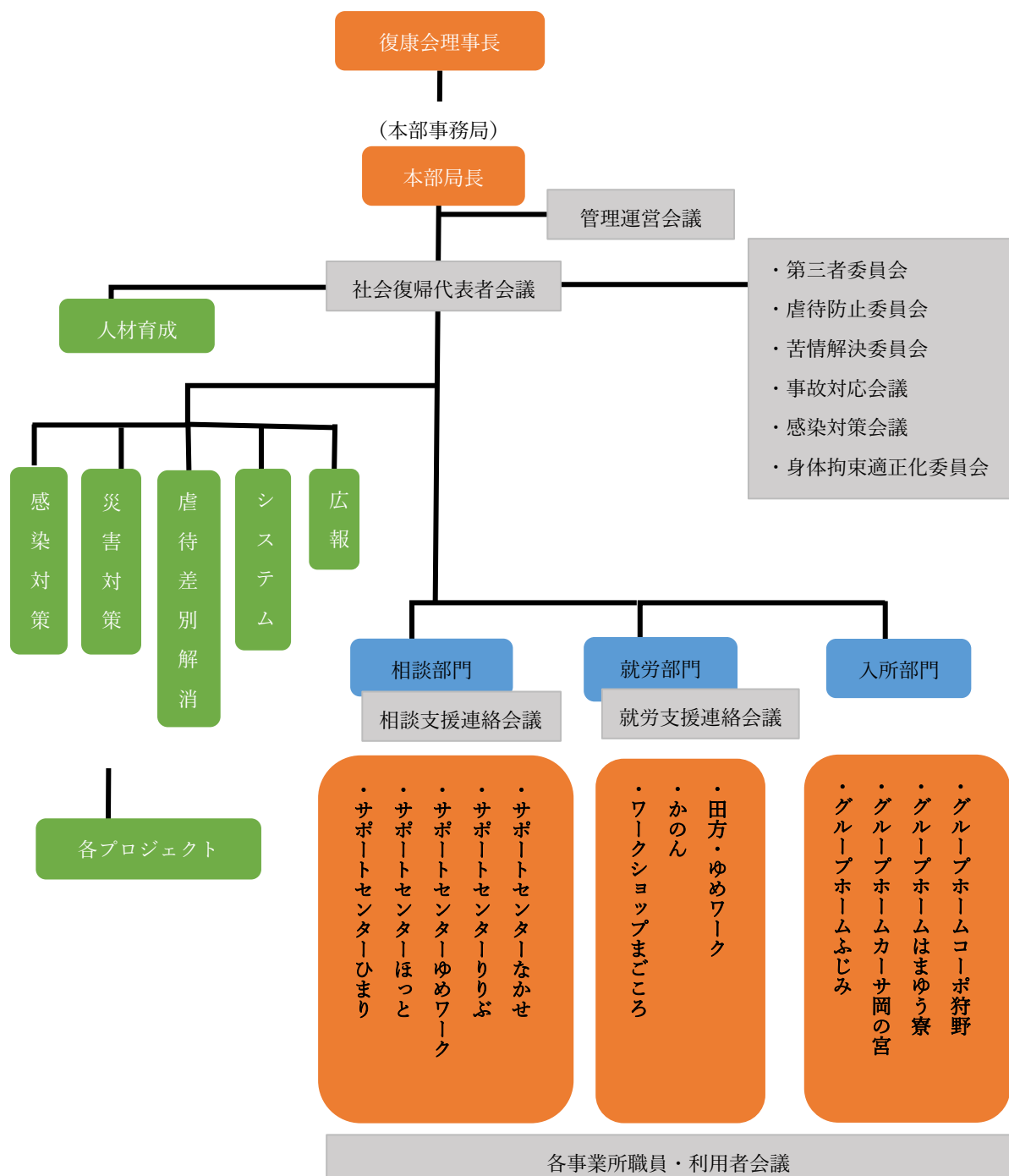
田方・ゆめワーク 伊豆の国市田京 1259-294

TEL0558-75-5600

FAX0558-75-5601

Ⅱ 体制

1. 組織、会議



2. 職員状況

① 令和7年度入職者（他部署から事業部への異動も含）

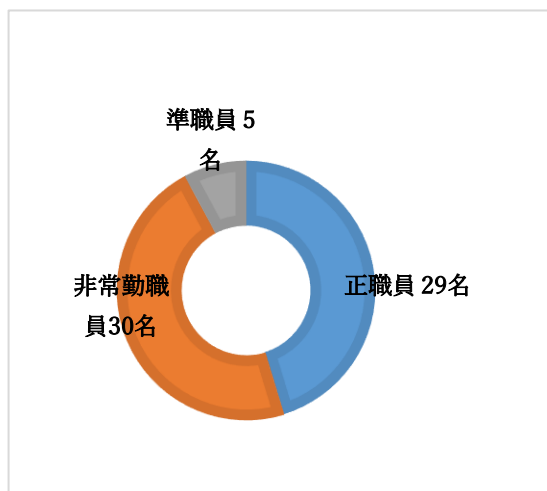
正：2名

準・非：6名

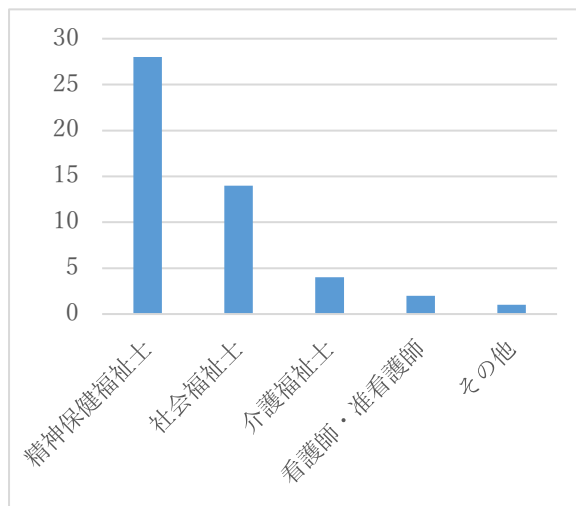
② 令和7年度退職者（他部署へ異動も含）

準・非：8名

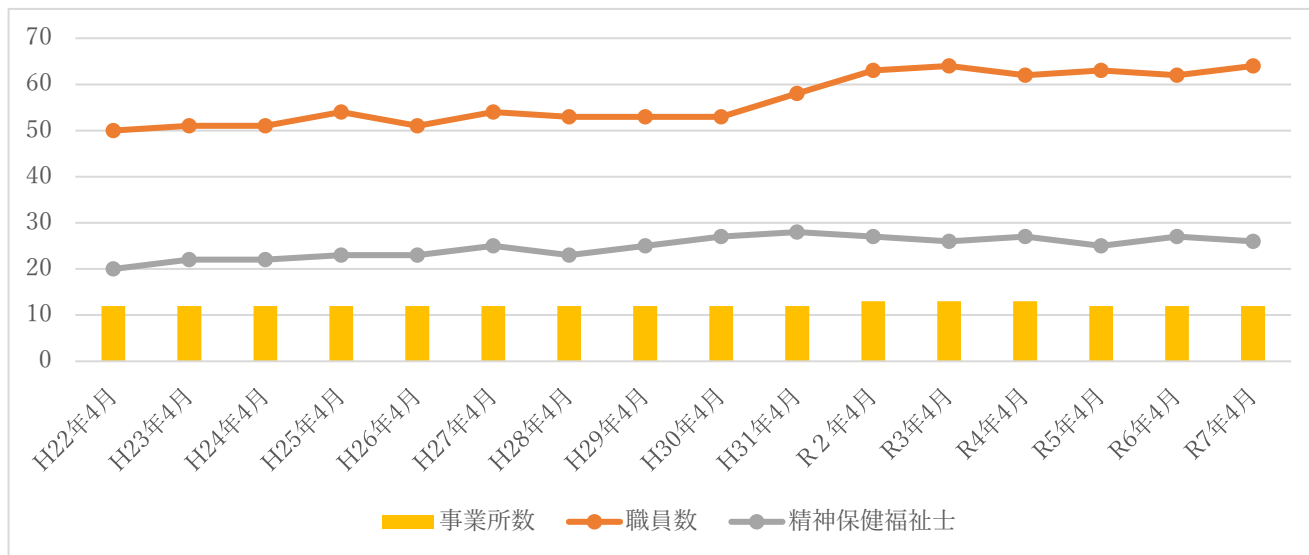
③ 正・準・非職員比（R8年3月31日）



④ 有資格者（重複有）



⑤職員状況等経過



Ⅲ 運営報告

1. 事業部全体

令和7年度の目標達成度

運営方針

誰もが自分らしく暮らす事のできる地域共生社会の実現を目指す。そのために障害者、特に精神障害について専門的見地からのかかわりを通して人・資源・地域を繋ぎ、障害者に寄り添う包括的な支援を行う。

また、地域や障害者の状況に合わせた事業運営と、先を見据えた事業展開を全職員と共にデザインする事でチーム意識ややりがいを持てるような、組織の強化に取り組む。

重点目標

- ①相談支援事業の再編による集中化と効率化
- ②ピアスタッフの真価が発揮できる環境づくり
- ③災害・感染対策の強化と地域共同による事業展開
- ④教育研修を通じた人材育成や人材確保対策を強化

令和7年度において、相談支援事業の再編による集中化と効率化については、年度後半より具体的準備を進め、各市町との協議を重ねた結果、次年度より相談支援事業の一元化を実施できる見通しとなった。これにより、利用者の利便性向上と安定的運営が期待される。

次に、ピアスタッフの真価が発揮できる環境づくりについては、関係事業所間で検討を継続したものの、受入れ体制の明確化や統括者の設置には至らなかった。一方で、個別支援や講師依頼は法人内外から多数寄せられ、ピアスタッフの活躍の場は着実に広がっている。

災害・感染対策の強化と地域協働による事業展開については、地域・圏域自立支援協議会、防災訓練や地域行事への参加も各事業所で取り組んだ。また、グループホームにおける地域連携推進会議については、今年度初めて開催し、ご家族や地域の

方にも日常の支援を知っていただく機会となった。

感染対策では、感染症のまん延を受け、予防を中心とした感染症対策の学習を改めて行ったが、今後はより重点的な学習が必要であると考えられた。

教育研修を通じた人材育成については、種別ごとの会議や事例検討会、非常勤職員交流研修等横断的な企画を取り入れ、事業部全体で職員の育成を行ってきた。人材確保については、募集方法の工夫等から応募もあり、必要な人材の確保は達成できた。

また、相談事業所サポートセンターほっと及びグループホームふじみについては、運営上の課題から今年度末で廃止となった。

事業部職員人材育成

①職員研修

事業所単位での法定研修等年間計画を立案し行っている。特に感染対策を強化し、ノロやコロナ発生時対応について重点的に行った。

また全体で準職員、非常勤職員を対象に虐待防止研修を実施。県研修参加職員が講師となり、講義とGWを実施。日頃の利用者との関り相談や他部署の業務を知る機会にもなっている。

②目標管理シート作成

毎年事業部全体の重点目標⇒各事業所の事業目標⇒全職員の目標を年度初めに掲げ、年2回事業所管理者と面接を行いながら目標達成度を確認している。全ての職員が自身の目標を掲げる事で、本人も管理者も1年間の達成が見える化し、やりがいやスキルアップにつながっている事を実感する。

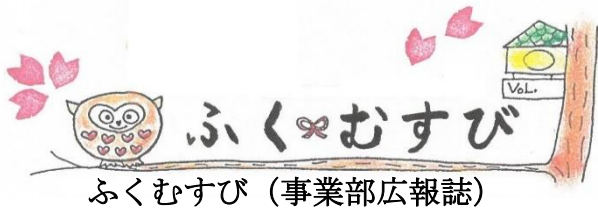
③県法定研修受講

相談支援従事者・サービス管理責任者
虐待防止研修

虐待、苦情件数、報告会等

令和7年9月26日 第三者委員への報告会を実施。虐待通報や第三者委員への依頼はなかったが、苦情やヒヤリハット等の内容を報告し助言をいただいた。

今後も職員1人1人の意識と開かれた職場環境作りを行っていく



事業部全体の広報誌（月 1 回）を発行。今年度も 12 回発行した。

《トピックス》

- 4 月 「サポートセンターりりぶの紹介」
サポートセンターりりぶ
- 5 月 「皆様にお聞きした『あなたの推し弁当』の
ランキングを発表します！」
就労支援事業所かのん
- 6 月 施設外就労「環境美化・ブドウ収穫
／中伊豆ワイナリー農場」
就労支援事業所 田方ゆめワーク
- 7 月 「富士市!! 基幹相談支援センターに
『委託相談支援事業所』も加わり、
“官民協働”で運営すること
になりました。」
サポートセンターほっと
- 8 月 「移転しました！ワークショップまごころ・
サポートセンターひまり」
就労支援事業所ワークショップまごころ
サポートセンターひまり
- 9 月 「出張!!ピアサポート連絡会
in 三島森田病院デイケアプログラム」
サポートセンターなかせ
- 10 月 「ワークショップまごころ
移転後 3 か月経ちました！」
就労支援事業所ワークショップまごころ
サポートセンターひまり
- 11 月 「第 5 回静岡県ピア交流会」
サポートセンターなかせ
- 12 月 「第 5 回ふくスポ・秋ふく展を
開催しました！！」
秋ふく祭り実行委員

令和 8 年

- 1 月 「利用者の皆さんに『新年の抱負』
をうかがいました！！」
- 2 月 「りりぶのみんなに聞いた！！りりぶで印象
に残っていること、楽しかったこと～2025～」
サポートセンターりりぶ

3 月 「社会復帰事業部職員研修会報告」
研修担当

(委託事業)

駿東田方圏域スーパーバイザー事業

平成 25 年度より静岡県の委託を受け、駿東田方圏域（6 市 4 町）の広域的課題の共有や、障害福祉サービスの総合的調整及び推進等に関して協議・検討する体制の整備を県と共に実施。

年度初めにはスタートアップ研修として厚労省の専門官に講師を依頼し、各市町の地域生活支援拠点の実践報告と国の動きを学ぶ機会を設けた。

また各市町で中核人材として活躍する主任相談支援専門員の育成として、前年度より更に参加者を広げ主任相談支援専門員フォローアップ研修を年 4 回実施した。

福祉的就労に関しては、就労選択支援が開始されるタイミングで就労部会を設置し、部会長を中心に圏域で統一した選択支援評価シートの作成や特別支援学校生徒さん等の利用予定者に対する調整を進める事が出来た。

圏域内各市町に基幹相談センターも設置され、圏域 SV としての役割が、変化してきた年であった。

長泉町重層的支援体制整備

前年から取り組んでいた医療的ケアが必要な児とその家族の災害時支援として、令和 7 年度は個別避難計画を関係者と共に作成し、災害時資源として RV 車の活用及び設置場所の提供企業と町が協定を締結するに至りました。また多機関協働として個別支援の調整により狭間と言われる方たちに対して、垣根を越えた他分野連携で伴走支援に取り組む事が出来ました。委託事業としては本年度で終了となりますが、引き続き相談事業所として協力出来ればと考えている。

2. 各事業所活動報告

グループホーム コーポ狩野

1. 目標及び評価

1. 利用者の主体性を重視しながら、スタッフ間の支援の方向性の統一を図れるよう、申し送りやスタッフミーティングを有効活用する
2. 担当の業務に最後まで責任を持って取り組む
3. 感染症や災害に対する研修や訓練を定期的に行い、利用者の暮らしを守ることに備える

- ・スタッフミーティングの際に支援会議を定期的で開催している。支援の方向性の統一については会議を有効活用出来ておらず、引き続き申し送りや会議のあり方を見直す必要があると考える。
- ・担当業務を明確にすることで、責任を持って取り組めた。
- ・施設内研修については動画を活用し、負担を軽減しながら実施することが出来た。

<職員配置> (令和7年4月1日付)

職 種	管 理 者	サ ー ビ ス 管理責任者	生 活 支 援 員	世 話 人
人 数	1	1	2	5
勤 務 形 態	常/兼務	常/兼務	常/非 専従	常/非 専従

2. 実績

入退所では3名が入所し定員となった。いずれも1年以上の長期入院後の退院者となっており、体験外泊を数回繰り返していただく中で、それぞれの方に必要な対応を把握するようにした。退所者は1名で身体的不調による入院後の死亡退所であった。

利用者の高齢化に伴い身体的ケアに対するスキルアップは喫緊の課題となっていた中、令和7年6月、看護職員採用に至った。週1日の勤務ではあるが、日々の健康管理や身体疾患に対する状況判断、予防的関わりが出来るようになり、利用者のみならず、職員の安心感にも繋がっている。

生活能力はあっても、自信がなく自立への一歩を踏み出せずにいる入居者も数名おり、地域の更なるニーズに応えるためにも、資源を利用しながら

ら本人の安心につなげ、地域での自立生活を目指して行きたい。

<利用状況>

	R5 年	R6 年	R7 年
定 員	18	18	18
利 用 者 数	17	16	18
新規入所者数	2	3	3
退 所 者 数	1	4	1

<男女別の入所者数と平均年齢>

	人 数	平 均 年 齢	
男 性	11 名	54.9 歳	57.3 歳
女 性	7 名	61.1 歳	

<入所期間>

入 所 期 間	人 数
1 年以内	3 名
1～3 年未満	5 名
3～5 年未満	1 名
5～8 年未満	3 名
8～10 年未満	3 名
10～15 年未満	0 名
15 年以上	3 名

(令和8年3月31日現在)

3. 総括

高齢の利用者も多く、精神的な不調よりも身体的な不調や病気への介入が多くなり、受診同行は主な支援の1つとなっている。また、日々の身体的処置も年々増えている。

看護職員の配置により、身体疾患に対する予防的関わりを実践できるようになり、その支援も統一することが出来るようになってきている。

満室となり精神的にも身体的にも安定して過ごせる方が多くなり、入退院も減少している。経営的には安定をしたところではあるが、利用者の希望を叶えるためにも、単身生活等自立を目指した支援を行って行きたい。

グループホーム はまゆう寮

1. 目標及び評価

1. 利用者ひとりひとりに合わせた支援を行い、強みを見つけそれを伸ばす様な働きかけをし、スタッフ間や関係機関と情報共有する
2. 利用者が安心して居心地良く過ごせるよう、スタッフがスキルアップを目指す
3. 地域住民と関係を保ちつつ協働した災害対策訓練、地域ケア会議を実施する

- ・生活場面では、目標通りいいところに着目し、個々に合わせた声掛けや見守りの範囲を考え、支援を行った
- ・スタッフの研修参加を積極的に推進した
- ・地域の一斉清掃は全員参加で地域の方と一緒に言う事ができた

<職員配置> (令和7年4月1日付)

職種	管 理 者	サ ー ビ ス 管理責任者	生 活 支 援 員	世 話 人
人数	1	1	1	3
勤務 形態	常/兼務	常/兼務	常/兼務	非/専従

2. 実績

入退所では1名が退所し自宅での生活に戻った。自立を希望しての利用であったが、環境に慣れず退所となった

医療機関への受診同行が多くなり、内科、皮膚科、歯科等へサビ管や世話人が同行し病状の説明等を行った。

地域との交流では、地域の公園清掃にスタッフも利用者も一緒に参加し、微力ながらも清掃活動に協力できた

今年度から義務化された地域連携推進会議は地域社会の皆様をお呼びし会議や見学を行った。利用者も出席して和やかな雰囲気では会議と見学を行うことができた。

<利用状況>

	R5 年	R6 年	R7 年
定 員	9	9	9
利 用 者 数	8	9	8
新 規 入 所 者 数	1	1	0
退 所 者 数	1	0	1

<男女別の入所者数と平均年齢>

	人 数	平 均 年 齢	
男 性	5 名	52.8 歳	54 歳
女 性	3 名	57.6 歳	

<入所期間>

入 所 期 間	人 数
1 年以内	0 名
1～3 年未満	1 名
3～5 年未満	0 名
5～8 年未満	1 名
8～10 年未満	1 名
10～15 年未満	2 名
15 年以上	3 名

(令和8年3月31日現在)

3. 総括

年度当初は定員9名中、利用者9名で、男性5名、女性4名の構成から始まった。年度中に女性1名が退所した。

年々利用者の身体科受診が多くなり、健康管理面が苦手な利用者も数多くいる事は一つの課題であった。

しかし世話人兼看護師が働き始めた事で、健康管理面の促しや指導ができはじめてはいる。一見色々できそうであっても支援が必要な状況は個別に違い、その人にあったグループホームでの生活や本人の希望に沿った支援をしていきたい。

グループホーム カーサ岡の宮

1. 目標及び評価

1. 利用者ひとりひとりに合わせた支援を行い、強みを見つけそれを伸ばす様な働きかけをし、スタッフ間や関係機関と情報共有する
2. 利用者が安心して居心地良く過ごせるよう、スタッフがスキルアップを目指す
3. 地域住民と関係を保ちつつ協働した災害対策訓練、地域ケア会議を実施する

- ・利用者の一人ひとりに合わせた支援を心掛け、特性を理解しながら、強みを生かせるように働きかけた
- ・スタッフそれぞれが役割を持ち、メールや電話、週 1 回は対面で情報共有し研修等も積極的に行うようにした。
- ・地域の防災訓練への参加や町内清掃へ参加した。地域住民として認知もされてきている。感染対策の研修は施設内で利用者にも行った。

<職員配置> (令和 7 年 4 月 1 日付)

職 種	管 理 者	サ ー ビ ス 管 理 責 任 者	生 活 支 援 員	世 話 人
人 数	1	1	1	2
勤 務 形 態	常/兼務	常/兼務	常/兼務	常/専従

2. 実績

今年度は入退所がなく人員の動きはない 1 年であった。見学、体験利用は積極的に受けているが、病状の悪化や近くに店がない等環境面を理由に、利用には至らなかった。

目標にあるスタッフ間や関係部署との連絡連携は様々な工夫をし行なえてきた。

地域とのつながりとして、クリーン作戦への参加や防災訓練へ参加し、地域住民としての役割を少しながら果たしている。

また、地域連携推進会議を開催し地域住民代表や行政、利用者との交流もできた。

<利用状況>

	R5 年	R6 年	R7 年
定 員	10	10	10
利 用 者 数	7	7	7
新 規 入 所 者 数	1	0	0
退 所 者 数	2	0	0

<男女別の入所者数と平均年齢>

	人 数	平 均 年 齢	
男 性	4 名	56.7 歳	62 歳
女 性	3 名	69.3 歳	

<入所期間>

入 所 期 間	人 数
1 年以内	0 名
1～3 年未満	1 名
3～5 年未満	3 名
5～8 年未満	1 名
8～10 年未満	1 名
10～15 年未満	1 名
15 年以上	1 名

(令和 8 年 3 月 31 日現在)

3. 総括

定期的に身体科に通院する利用者が多くなり、必要な方にはサビ管や世話人が受診同行をしている。

新規入所がない課題はあるが、見学・体験入所は積極的に受け入れていく体制は継続し、環境面は変えられないが、支援体制を検討していくことで環境面をカバーし入所に繋げていきたい。

また地域社会に開かれたグループホームとして地域の行事にも積極的に参加してゆきたい。

グループホーム ふじみ

1. 目標及び評価

1. 利用者ひとりひとりに合わせた支援を行い、強みを見つけそれを伸ばす様な働きかけをし、スタッフ間や関係機関と情報共有する
2. 利用者が安心して居心地良く過ごせるよう、スタッフがスキルアップを目指す
3. 地域住民と関係を保ちつつ協働した災害対策訓練、地域ケア会議を実施する

- ・利用者の希望を確認しながら、情報提供、生活支援を行ってきた
- ・高齢に伴う変化に対し、受診同行や退所支援を行ってきた。
- ・感染対策、災害対策は職員研修や利用者含めた訓練を行った。利用者を含めた避難訓練は、夜間休日に人員配置が無いため、必須の事でもある。

<職員配置> (令和7年4月1日付)

職 種	管 理 者	サ ー ビ ス 管理責任者	世 話 人	看 護 師
人 数	1	1	2	1
勤 務 形 態	常/兼務	常/兼務	常/兼務	常/非 専従/兼務

2. 実績

今年度途中より方針が決定され、年度末にグループホームふじみを閉所、廃止した。現状の世話人が日中のみの勤務体制で、食事提供は夕食のみ。施設の老朽化等があり選ばれる施設ではなくなったこともあり閉所、廃止するに至った。

本人、家族と面談し、希望する生活、現状、必要な支援をアセスメントし、見学・体験利用を繰り返し、廃止決定時に入居していた6名は、在宅1名、他グループホーム4名が入所となった。また1名は病状があり、精神科病院への入院となった。そのうえで令和8年3月31日に事業廃止をした。

<利用状況>

	R5 年	R6 年	R7 年
定 員	10	10	10
利 用 者 数	8	5	0
新 規 入 所 者 数	0	0	1
退 所 者 数	0	3	6

(令和8年3月31日)

<平均年齢>

58 歳

<入所期間>

入 所 期 間	人 数
1年未満	1名
1～3年	0名
3～5年	2名
5～8年	1名
8～10年	0名
10～15年	0名
15年以上	2名

(令和8年3月1日現在)

3. 総括

継続的に入居者の高齢化・キーパンソン不在が課題となっていた。利用者の年齢があがるにつれて、身体管理の必要になっており、職員により受診同行等の機会が増えている。なかなか、利用者自身が危機管理を持つことができず、現状の設備やスタッフ配置では対応困難な状況が続いていた。

そのような状況もあり実績でも記載した通り、令和8年度末で閉所、廃止することになった。希望する生活を丁寧に聞き、他グループホームを見学・体験利用し、最も適切と思われるグループホームに繋ぐ等して、それぞれ退所していった。

平成9年4月に開所したグループホームふじみは29年間、富士市内で地域の皆さんに支えられ運営することができました。誠にありがとうございました。

相談支援事業所

サポートセンターなかせ

1. 目標及び評価

1. 地域の実情を理解し、目の前の利用者・関係機関から求められる役割を果たす
2. ピアスタッフ・サポーターとの協働機会の創出と職場環境の整備
3. 災害時・緊急時を視野に入れた形での個人・事業所単位の相談支援事業所一元化を踏まえたフォロー体制の整備
4. 地域の中核人材として主体的・積極的に各自立支援協議会活動に参画する

<職員配置> (令和7年4月1日付)

職 種	管 理 者	相談支援 専門員・サ ビ 管	相談員・支 援 員	ピ ア ス タ ッ プ
人 数	1	4	3	2
勤 務 形 態	常勤/兼務	常/専従・ 兼務	非/兼務	非/兼務

2. 実績

(1) 相談支援

引き続き、沼津市(基幹・委託)・長泉町(委託)、指定特定相談(計画)、指定一般相談(地域移行支援)を実施。相談内訳としてはここ数年大きく変化はなく、主業務となっている計画相談に付随した福祉サービスの利用に関する相談が約半数を占めている。変化としては支援方法に関して同行が前年度の倍以上の数となっている。これも同様に計画相談に関連した動きの変化によるものとなるが、障害福祉サービス事業所の増加に伴い利用者の選択肢が急激に増えている中で、相談支援専門員の情報提供に関する支援が非常に重要な位置づけとなっている。その点も踏まえ、利用者の状況に合わせ同行を支援方法として行う機会が増加傾向にある。

(2) 自立支援協議会

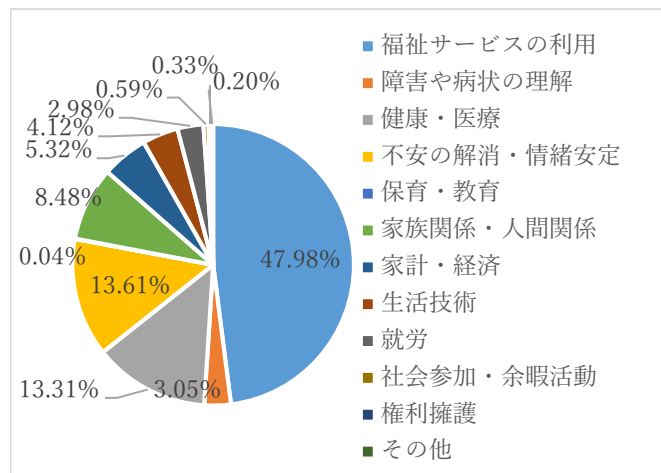
引き続き、県・圏域・市町(沼津・長泉)それぞれの枠組みで、相談部会・地域移行部会の部会長等役割を主体的に担っている。それぞれの課題・テーマは異なり、棲み分けを意識した取り組みは重要な観点となるが、ピアサポートに関わることなど

共通する内容も横断的に顕在化している。当法人の特徴・強みとしてそれら枠組み・テーマ共に広範囲に渡り関与できる機会にあり、個々に専門職としてキャリア形成に繋がる取り組みも可能である。組織として大きな変革期となる中で、個の専門職としての意識と地域の体制整備に寄与する法人としての責務とを連動した形で自立支援協議会の活動を位置付けたい。

<支援方法>

年度	訪問	来 所	同 行	電 話	メ ー ル	個 別 支 援 会 議	関 係 機 関	そ の 他	合 計
R 5	897	99	69	1734	28	77	2940	12	5856
R 6	1002	122	78	1686	63	81	3081	1	6114
R 7	1196	174	190	2146	128	81	3535	1	7451

<相談内容内訳>



3. 総括

安定的な人材・財源の確保、相談員へのフォロー体制の整備(人材育成)などを主な目的として、令和8年度より法人内相談支援事業所を一元化する。法制度の改正・周辺地域の実情の変化などに合わせて、柔軟に対応できる組織としての強化を図るためには専門職個人としての意識が重要となる。その集団としての所属意識と凝集性を高めるひとつのきっかけとしてこの機会を有効に活用し、中長期的な視点に立った際の分岐点となるようにしていきたい。

サポートセンターりりぶ

1. 相談支援事業所、地域活動支援センター事業が地域の社会資源の一助となるよう努める
2. 当事者理解に努め、ピアスタッフと職員とのコミュニケーションを円滑にする
3. 自然災害、感染対策を想定した日頃の備えとBCPの見直し

職 種	管 理 者	相談支援専門員	生 活 支 援 員
人 数	1	2	3
勤務形態	常/兼務	常/専従	常/非 専従

昨年度熱海市内にあった系列のクリニックが閉鎖したことにより市外に通院せざるを得ない状況から生じる負担感の相談。また、医療機関にクライアントからの相談内容の随時共有（報告）が困難となった。

年度	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援	関係機関	その他	合計
R5	701	465	77	5598	48	36	2284	0	9209
R6	789	478	55	4635	58	42	2133	11	8201
R7	789	482	70	4051	85	33	2302	12	7824

Reason for Visiting a Doctor	Percentage
福祉サービス利用	0.1%
障害・病状理解	2.5%
健康・医療	0.9%
不安・情緒	21.4%
保育・教育	4.8%
家族・人間関係	24.5%
家計・経済	0.1%
生活技術	0.1%
就労	0.1%
社会参加・余暇	0.1%
権利擁護	0.1%
その他	0.1%

相談支援事業所

サポートセンターほっと

1. 目標及び評価

1. 利用者主体の支援を目指し、他機関との連携・チームアプローチを意識する
2. 災害等危機感を常に持ち、緊急対応に取り組む
3. 法人内での取り組みに興味を持ち、また、地域へと還元できるよう広い視野で取り組む。

＜職員配置＞（令和7年4月1日付）

職 種	管 理 者	相 談 支 援 専 門 員
人 数	1	3
勤務形態	常/兼務	常/専従・兼務

2. 実績

（1）相談支援

昨年に引き続き、「相談支援事業」「計画相談支援」「地域移行支援」を行う。「相談支援事業」については富士市から委託を受け、官民共同で基幹相談支援センターの役割を担い、本人・家族をはじめ各関係機関からの相談に対応した。常に連携・チームアプローチを意識した連絡、相談、報告を行ってきた。時に、地域包括支援センターから訪問同行の依頼を受け対応した。

「計画相談支援」は人員変更や減員に伴う担当者の変更で、利用者の戸惑いが見られた。しかし、丁寧な関わりと適切なサービス提供を意識し、支援に取り組んだ。新規利用者は受けることができず、現状維持であった。「地域移行支援」は、終了者1名だが病状悪化等で退院の見込みがなくなり終了。

災害等危機感を常に持ち緊急対応に取り組むでは、利用者の生活変化での危機介入に応じられるように意識したが充分対応できたかは反省するところである

（2）自立支援協議会

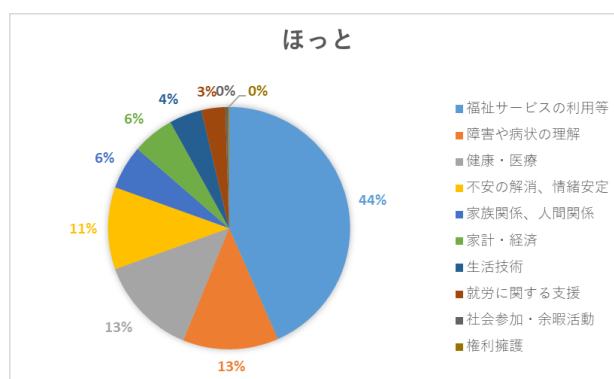
今年度は、富士圏域の自立支援協議会の副会長として参加。前年度の運営や企画に携わるというより、

サポートにまわることが主であった。昨年に引き続き、研修部会のコアメンバーとして参加、富士市内の事業所の質の向上、横のつながりを意識した研修開催に取り組んだ。

＜支援内容内訳＞

年 度	訪 問	来 所	同 行	電 話	メー ル	個 別 支 援 会 議	関 係 機 関	そ の 他	合 計
R5	740	98	102	1576	0	475	1661	0	4652
R6	666	121	123	1185	3	643	1803	1	4843
R7	267	33	73	442	1	221	864	3	1904

＜相談内容内訳＞



3. 総括

今年度途中に人員の減少、担当変更があり、現状維持することに終始し、対応件数は減少した。他機関との連携は欠かさないよう、意識して行い、それらが利用者の生活上の危機対応で発揮される場面もあった。

次年度からほっととしての事業所は廃止し、なかせへの統合のため利用者や関係機関への説明を行った。年度末にはほっとの事業所を引き払い、富士市の拠点になる場所へ転居した。次年度は体制的に富士市の委託は辞退することになった。なかせと統合により、人材育成や利用者へのかかわりが充実し、より質の高いサービスを提供できると期待する

相談支援事業所

サポートセンターひまり

1. 目標及び評価

1. 各職員の経験を活かしたOJTの体制を作り、相互のスキルアップを図っていく。
2. 地域課題抽出を意識した『ぼやき』の可視化を積極的に行い、地域に発信していく。
3. ピアスタッフと目的を持って協働する。
4. アーチで企画する災害対策の取り組みへ積極的に参画する。

<職員配置> (令和7年4月1日付)

職 種	管 理 者	相談支援専門員	相談支援員
人 数	1	2	1
勤 務 形 態	常/兼務	常/専従	常/専従

2. 実績

(1) 相談支援

例年通り、三島市より委託を受け相談支援事業を実施。令和7年6月に事務所移転、交通事情により来所相談件数が少ない傾向にあるが、訪問や電話等別手段にて柔軟に対応。近年、疾患や障害特性上、来所や電話が難しい場合にメール相談が増えており、件数にも反映されている。相談者は本人や家族だけではなく、医療機関や地域包括支援センター、行政からの直接依頼も目立った。特に就労相談が多く、就労支援事業所が実施している在宅支援利用に関する相談も今年度の動きといえる。

(2) 自立支援協議会

今年度も引き続き、三島市障がいと暮らしを支える協議会の運営委員として参加。『精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム』ではチームメンバーとして、高齢分野、医療機関、保健センターなど各分野から参加しているメンバーと共に、精神障がいに関わる分野の支援の中で感じる地域課題について話し合いを重ね『つながり』を構築していくための集まる場の設定を行ってきた。

今後も、精神障がいに関わる支援者同士の『顔の見える関係』を構築する機会として、集まる場を設定し支援者同士のつながり作りに積極的に取り組んでいきたい。

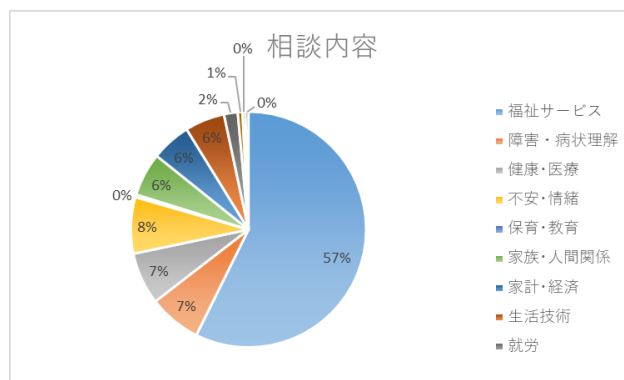
(3) 基幹

今年度も三島市基幹相談支援センターは、市から委託を受けた相談支援事業所3か所と共に官民共同体制で困難ケースの対応を行い、連携会議では企画・運営に積極的に参画しながら、三島市内の相談支援体制強化について取り組んできた。

<支援方法>

年 度	訪 問	来 所	同 行	電 話	メー ル	個 別 支 援 会 議	関 係 機 関	そ の 他	合 計
R5	968	136	101	799	48	105	2340	11	4508
R6	1346	148	204	967	125	122	2591	11	5514
R7	1078	102	136	829	171	109	2087	3	4858

<相談内容内訳>



3. 総括

今年度は障がい特性から就労事業所に通所することが難しい利用者には、市・就労事業所と相談しながら在宅支援を導入し、利用者の働きたい気持ちを支援できるよう支援の方法を模索してきた。

また昨年度に引き続き、高齢の家族と同居している世帯や子育てに課題を抱える世帯などの家族全体を捉えた支援、経済的に困窮している世帯への介入など、多くの関係機関と協働して支援していく機会も多かった。

今後も、相談員自身のスキルアップを図りながら、児童分野・介護分野の支援者と共に協働し家族全体を支援をしていくケース、医療機関と密に連携していくケースなどに取り組み、利用者が安心して生活できる支援体制・地域作りに努めていきたい。

相談支援事業所

サポートセンターゆめワーク

1. 目標及び評価

1. 伊豆の国市や関係機関と密に連携し、基幹相談支援事業の立ち上げに尽力する
2. 対象者と直接関わる時間を確保できるよう、事務作業など業務効率化を図る

<職員配置> (令和7年4月1日付)

職 種	管 理 者	相談支援専門員	生活支援員
人 数	1	2	2
勤 務 形 態	常/兼務	常/専従	常/専従

2. 実績

(1) 相談支援

センターへの相談は電話やメール・来所・訪問等を通して対応。来所相談は減少、令和7年度から伊豆市の委託相談の契約が終了したこともあり、全体的な件数は減少傾向。伊豆の国市基幹相談支援センターとして訪問や同行、個別支援会議への参加依頼は増加している。

計画相談は引き続き伊豆の国市を中心に福祉サービス利用者に対して行い、対象者も約100名近くなり、年々増加している。より関係機関との連携を密にしつつ、適正な調整能力、繋ぐ支援が求められる。

(2) 自立支援協議会

主に伊豆の国市の自立支援協議会の運営に携わり、地域における障害者支援、啓発活動に取り組んでいる。本年度は基幹相談支援センターとして、全体研修会『虐待防止研修』の企画運営を行った。当事業所の精神保健福祉士が運営・協議委員、精神包括ケアシステム部会長、就労部会長を担当、相談支援事業所部会にも参画。12月の障害者週間に合わせて開催される活動報告会では、当事者の方々から『余暇』をテーマに発表。当事業所の精神保健福祉士がコーディネーターを行った。

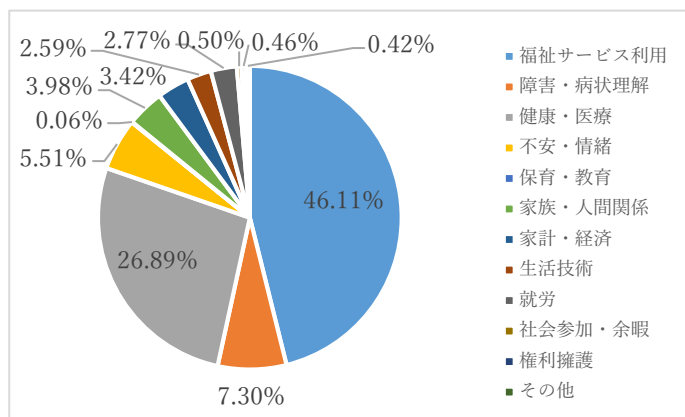
また、精神包括ケアシステム部会が中心となって「メンタルヘルス懇話会」「お金に関する勉強会」を開催。特に「メンタルヘルス懇話会」については、当事者のニーズが聴かれ、次年度複数回開催を視野に当事者同士の繋がりやのきっかけづくりに取り組んでいく。

伊豆市においては相談支援事業所部会引き続き参画し、メンタルヘルス分野で地域に貢献できるよう努めている。

<支援内容内訳>

年 度	訪 問	来 所	同 行	電 話	メー ル	個 別 支 援 会 議	関 係 機 関	そ の 他	合 計
R5	648	431	66	1457	47	92	1461	11	4213
R6	1048	355	89	1016	20	154	1589	12	4283
R7	1171	134	54	533	29	314	1049	10	3294

<相談内容内訳>



3. 総括

計画相談の依頼は増加傾向。移動等の効率化を図る為、事業所ごとの担当制にするなど工夫して対応。また、8050問題、ひきこもり、触法など複合的な問題を抱えるケース相談も増えており、より関係機関と連携を図り対応していく必要性が高まっている。今年度から伊豆の国市基幹相談支援センター業務を担うことになり、地域での求められる役割も増えてくるため、行政、支援関係者らと顔の見えるチーム作り、質の高い支援の実施と、利用者が安心して暮らせる地域づくりに取り組みたいと考えている。

就労継続支援B型支援事業

就労支援事業所 田方・ゆめワーク



1. 目標及び評価

1. 個々の障害特性の理解を深め、適切な関わり方や支援方法について学び、虐待防止に努める
2. 工賃アップを目指し、魅力ある授産製品の開発、販売先の開拓・確保に取り組む

新規契約者数は微増ながらも、個々の障害特性に応じた作業環境の整備や工賃増額、低額の昼食提供、参加日数に応じた奨励手当などの効果もあり、利用者一人一人の利用率は向上。自主製品であるパン製造・販売においては材料費等の物価高騰の煽りを受け依然厳しい状況が続いている。しかし、近隣事業所や市内保育園など関係機関の協力もあり、パンの出張型販売や地域イベント等への出店において売り上げ好調で、工賃アップを可能とする授産収益は達成できた。また、職員全員がコスト意識を持って業務改善を図ることで、利用者に対するサービス向上はもちろん、一人一人の生活支援にもつながったと評価できる。

〈 職員配置 〉 (令和7年4月1日付)

職 種	人 数
管理者・サービス管理責任者	1 名
生活支援員	1 名
職業指導員	3 名
目標工賃達成指導員	2 名

〈 作業内容 〉

- ①軽作業
箱折、タオルたたみ、梱包作業、鉄線加工など
- ②パン製造・販売
- ③館内清掃
- ④施設外就労（中伊豆ワイナリー雑草駆除作業）

2. 実績

年度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
利用実人数（人）	26	20	25	24	22
年間開所日数（日）	240	246	248	245	242
一日の平均利用者数（人）	11.9	10.7	13.5	14.4	14.5
平均工賃月額（円） （ ）内は年間最高額	8,388 (30,938)	10,605 (32,938)	17,698 (33,275)	12,360 (29,260)	13,004 (26,810)
一般就労移行者数（人）	0	0	0	0	0
（就職先業種）					

3. 総括

新規利用者は微増。目標値である 16.0 には至らなかったが一人一人の参加日数が安定したことで一日平均利用者数は昨年より 0.1 人増の 14.5 人と 3 年連続で増加。利用者の特性に応じた工賃区分設定と奨励手当の効果と思われる。次年度、パン販売ではキャッシュレス決済導入による売上向上を図り、目標工賃達成に努めたい。今後も一人一人の利用者に寄り添い、利用者が安心し、将来に希望をもって日々を過ごせるよう支援していくために、研修参加などを通じて全職員が自己研鑽に励みたい。

就労継続支援B型支援事業

就労支援事業所 かのん



1. 目標及び評価

1. 利用者理解を深めるため、アセスメントなどを職員間で共有する。
2. 職場内研修を実施し、職員のスキルアップと感染対策の強化を目指す

平均利用人数は前年度とほぼ変わらないが、退所者と新規の利用者は数人ずつおり、メンバーの顔触れは変わってきている。ここ数年の傾向ではあるが、障害や病状が強く残存していながらも働きたい、工賃を得たいという希望から利用希望される方が多い。そのため、作業内容はより分かりやすく簡易であるものが求められる傾向にあり、複雑な工程があるものや体力を使うもの、立ち仕事などは希望されない事が多い。また、働きたいという希望はあるものの、実際には短時間の利用が精一杯という方も多い現状にある。

〈 職員配置 〉 (令和7年4月1日付)

職 種	人 数
管理者・サービス管理責任者	1 名
サービス管理責任者	1 名
生活支援員	1 名
職業指導員	6 名
目標工賃達成指導員	2 名
ピアスタッフ	1 名

〈 作業内容 〉

- ①内職作業
箱折、組立て、自主製品製作など
- ②喫茶・販売作業
「コーヒーショップやすらぎ」営業
「軽食喫茶花のん」弁当製造・販売
沼津市役所「パイン」販売当番
- ③施設外就労
沼津中央病院清掃

2. 実績

年度	R3	R4	R5	R6	R7
利用実人数 (人)	58	57	51	51	56
年間開所日数 (日)	278	270	279	276	277
一日の平均利用者数 (人)	21.1	22.1	20.1	19.7	19.7
平均工賃月額 (円) () 内は年間最高額	7,734 (24,622)	10,031 (29,120)	20,017 (30,260)	20,042 (31,523)	19,572 (30,195)
一般就労移行者数 (人)	2	3	1	1	2
(就職先業種)	医療 教育	小売 福祉施設 福祉施設	福祉施設	製造	医療 小売

3. 総括

内職作業の受注業者の変更も行い、より利用者が作業しやすい環境を整備することを心がけたが、前述の通り利用者層も変わってきている中、さらに作業内容と作業環境については検討が必要ではないかと思われる。また、利用者の努力もあり収益も上がってはいるが、それ以上に物価高騰による材料費や光熱水費等の支出が増え、純利益は下がっている。利用者への工賃向上を目標に売上向上のために出来ることの検討も行っていきたい。



1. 目標及び評価

1. 利用希望者や地域のニーズに応えられるよう、常に工夫やアイデアを出し合い、継続利用へつなげる
2. 個々の利用者に対し協働で支援を行い、望む暮らしに近づけるようサービスを提供する
3. 感染や事故を未然に防ぐ為、ヒヤリとした事を見逃さず、報告書へ挙げる習慣を身につける

- ・令和7年6月の事業所移転に伴い、全ての利用者が送迎対象者となった。送迎場所や送迎コースの検討を重ね、より多くの利用者がスムーズに通所継続できるよう工夫した。また内職作業においては元々作業スペースを必要とするものが多かった為、限られたスペースの中で配置の工夫を要した。
- ・事業所が1カ所となったことで、朝の申し送りで全利用者に対する情報共有が容易となり、支援においても協働で対応することがスムーズとなった。
- ・ヒヤリハット事案は送迎に関することが数件重なった。特に乗り降りの際にヒヤリとする場面が目立ち、降車場所を工夫したり、乗り降り時の手順を利用者スタッフ双方で確認し再度同じことが起こらないようにした。

〈 職員配置 〉

職 種	人 数
管理者	1 名
サービス管理責任者	1 名
生活支援員	1 名
職業指導員	6 名
目標工賃達成指導員	1 名

〈 作業内容 〉

- ①軽作業
箱折、みかんネット加工、バンド結束
- ②プリン・ジェラートの製造・販売
- ③施設外清掃



2. 実績

年度	R3	R4	R5	R6	R7
利用実人数 (人)	32	35	36	36	34
年間開所日数 (日)	292	292	294	294	293
一日の平均利用者数(人)	12.8	15.5	16.4	15.7	12.9
平均工賃月額 (円)	6885	7,911	15,855	16,000	18,030
() 内は年間最高額	(20,200)	(22,200)	(25,080)	(25,080)	(26,340)
一般就労移行者数 (人)	0	1	0	0	0
(就職先業種)		小売業			

3. 総括



移転前まで駅前の事業所へ通所していた方の中には、自身のペースで通所されていた方も多く、送迎時間に合わせることを苦痛とを感じる方もいた。また作業環境の変化自体に馴染めない方もおり、数名が利用終了に至っている。一方で移転を切っ掛けに新規利用につながった方もおり、その方に合った利用の仕方を利用者と共に模索しているところである。送迎という新たな業務が加わったものの2カ所に分散していた職員が1カ所にまとまり、円滑な情報交換と協働が可能となった点を、今後の支援にも活かしていきたい。

地域活動支援センター事業

サポートセンターゆめワーク

1. 目標及び評価

1. ピア活動と連動しながら、ピアサポーターやボランティアの育成に取り組む
2. 利用者の主体性を尊重し、個々の目標やチャレンジしたいこと等を活動に取り組めるよう工夫する

〈プログラム内容〉

創作活動、ラジオ体操、ウォーキング、料理教室
買い物ツアー、映画鑑賞、音楽鑑賞、茶話会
季節行事（初詣、花見、納涼会、クリスマス会等）
地域交流活動、健康講話、防災訓練、文化祭
田方福祉村清掃など

2. 実績

年度	R3	R4	R5	R6	R7
利用実人数	52	42	43	36	38
年間開所日数	240	241	241	243	243
一日の平均利用者数	4.6	5.7	5.6	6.7	6.3

3. 総括

就労系事業所の増加に伴い、開設当初のように十数名が利用することはなく、毎日少人数の利用となっている。利用者の希望を伺いながらストレッチ体操や料理教室など取り組んでいる。毎月1回、ピアスタッフと協働しながら茶話会を開催し、日常の悩みや不安などを当事者同士で話し合える場を設けており、利用者からも好評を得ている。今後も利用される方と一緒に考えながら、当事者主体の活動を支えていきたい。



サポートセンターりりぶ



1. 目標及び評価

利用者の障害理解に努め、ピアスタッフと職員とのコミュニケーションを円滑にする

〈プログラム内容〉

趣味・創作活動（塗り絵、タブレットでゲーム、YouTubeで動画視聴、カードゲーム、新聞・読書）
スポーツ（ウォーキング、卓球）、地域交流活動（ピアスタッフとの交流）、DVD鑑賞会、防災訓練、
季節行事（初詣、花見）、秋ふく祭り

2. 実績 ※サテライト伊東（月2回実施）

年度	R3	R4	R5	R6	R7
利用実人数	69	65	59	59	53
年間開所日数	221	243	241	220	239
一日の平均利用者数	8.0	8.0	6.4	7.0	5.5

3. 総括

① 事業の周知・啓発

ホームページや発行物にて当事業所のプログラムやイベントに関する情報を周知するが、思うように浸透していないように感じる。日々の利用者も年々減少していることを受けて、利用者に幅広く周知するための検討は引き続きの課題

② プログラムの工夫

今年度もプログラムの内容を企画検討してきた。利用者がどのような目的で地域活動支援センターを利用しているのかを個々に確認し、その上でのプログラムを検討。また、職員だけでなく利用者にもプログラムの企画検討に携わってもらい利用者主体で活動する。ピアスタッフにも月1回来てもらうことでよりその意識が浸透してきたように感じる。

③ 地域住民への啓発

精神に障害がある方を知るためにも、まずは、障害のある方が社会との繋がりを持つ機会が大切であると考え。昨年度同様にボランティアという形で地域住民にもプログラムに参加してもらうことで、障害が特別でないことの理解につながった。

IV 地域貢献活動

(1) 精神保健相談

なし

(2) 講演開催状況 (講師)

年月日	実施場所	テーマ	講師	主催又は後援
2025. 5/15	静岡県庁	市町障害福祉担当職員等研修	佐藤聖美	静岡県
2025. 6/24	国際医療福祉大学	精神看護学演習	鈴木伸二 石川淳 山崎将展	
2025. 7/29. 7/30. 9/12. 11/18. 11/19	シズウェル・労政会館	令和 7 年度相談支援従事者初任者 研修演習講師	佐藤聖美	静岡県
2025. 8/5. 8/6	シズウェル	静岡県障害者ピアサポート研修 (基礎)	石川淳 山崎将展	静岡県
2025. 8/18	グランシップ	医療的ケア児・者家族等のつなが りづくり推進フォーラム	佐藤聖美	静岡県社会福祉協議会
2025. 5/20	静岡県総合庁舎	精神保健福祉業務基礎研修会	鈴木伸二 石川淳 山崎将展	静岡県精神保健福祉セ ンター
2025. 9/18. 9/19 10/28. 10/29 12/16	シズウェル	令和 7 年度相談支援従事者現任研 修演習講師	鈴木伸二	静岡県
2025. 10/8. 10/9	静岡県総合社会福祉会館	静岡県精神障害者ピアサポート研 修 (専門研修)	石川淳 山崎将展	静岡県
2025. 10/11	熱海市保健福祉センター	熱海市市民後見人養成研修	秋津崇史	熱海市社会福祉協議会
2025. 11/21	伊東市健康福祉センター	伊東市市民後見人養成研修	秋津崇史	伊東市社会福祉協議会
2025. 12/8	グランシップ	静岡県地域移行地域定着研修	石川淳	静岡県
2025. 12/19	韮山保健・福祉センター	伊豆の国市市民後見人養成講座	青木大輔 武井紗知	伊豆の国市・伊豆市社 会福祉協議会
2026. 1/15～16	静岡県総合社会福祉会館	主任相談支援専門員研修	鈴木伸二	静岡県
2026. 1/27～28	静岡産業経済会館	精神障害者ピアサポート研修(フォ ローアップ研修)	佐藤聖美 鈴木伸二 石川淳 山崎将展	静岡県
2026. 3/9	東部総合庁舎	駿東田方圏域自立支援協議会地域 移行部会研修会	鈴木伸二	東部健康福祉センター

(3) 公的機関の医療・福祉活動への協力

活 動 内 容	役 職 名	公 的 機 関 名	担 当 者
静岡県自立支援協議会委員地域移行部会	委員	静岡県	鈴木伸二
駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会	部会長	東部健康福祉センター	鈴木伸二
富士圏域自立支援協議会	委員	富士健康福祉センター	北舘美沙依
沼津市障害者自立支援協議会 相談部会	部会長	沼津市	鈴木伸二
熱海市障害支援区分等判定審査会	審査委員	熱海市	鈴木伸二
熱海・伊東地区自立支援協議会地域移行部会	部会長	熱海市・伊東市	秋津崇史
熱海・伊東地区自立支援協議会精神障害部会	部会長	熱海市・伊東市	秋津崇史
熱海・伊藤圏域自立支援協議会発達障害ワーキング	リーダー	熱海市・伊東市	石田由貴
伊東市障害支援区分判定等審査会	審査委員	伊東市	秋津崇史
伊豆市地域自立支援協議会	協議委員	伊豆市	青木大輔
伊豆市・伊豆の国市障害支援区分等判定審査会	審査委員	伊豆市・伊豆の国市	青木大輔
伊豆の国市地域自立支援協議会	協議・運営委員	伊豆の国市	青木大輔
伊豆の国市地域自立支援協議会精神包括ケアシステム部会	部会長	伊豆の国市	小山千菜美
伊豆の国市地域自立支援協議会就労支援部会	部会長	伊豆の国市	武井紗知
沼津市障害者支援区分認定調査	調査員	沼津市	内藤治子
清水町障害支援区分認定審査会	審査委員	清水町	勝又美智子

(4) 実習受託

区 分	委 託 施 設 ・ 機 関 等	事 業 所	担 当 者
看護学生地域包括ケア探索実習	順天堂大学 保健看護学部	かのん	長谷川真美
看護学生臨地実習	静岡医療センター附属静岡看護学校	かのん	長谷川真美
看護学生臨地実習	御殿場看護学校	かのん	長谷川真美
看護学生臨地実習	沼津市立看護専門学校	かのん	長谷川真美
看護学生臨地実習	静岡県立看護専門学校	かのん	長谷川真美
職場体験実習	静岡県立伊豆の国特別支援学校	ゆめワーク	高橋和子
職場体験実習	伊豆の国市立長岡中学校	ゆめワーク	武井紗知
職場体験実習	伊豆の国市立大仁中学校	ゆめワーク	武井紗知
伊豆の国市民後見人養成研修	伊豆の国市社会福祉協議会	ゆめワーク	青木大輔

(5) 大学・看護学校への講師派遣

区 分	施 設 名	事 業 所	講 師
看護専門学校	沼津市立看護専門学校	ゆめワーク	青木大輔 小山千菜美

(6) 受託事業

所 属	受 託 事 業 名	担 当 者
サポートセンターなかせ	静岡県圏域スーパーバイザー設置事業	佐藤聖美
サポートセンターなかせ	長泉町重層の支援体制整備事業	佐藤聖美

V 令和8年度 事業計画

1. 事業部全体

運営方針（事業部）

誰もが自分らしく暮らす事の出来る地域共生社会の実現を目指す。そのために障害者、特に精神障害について専門的見地からのかかわりを通して人・資源・地域を繋ぎ、障害者に寄り添う包括的な支援を行う。また、地域や障害者の状況に合わせた事業運営と、先を見据えた事業展開を全職員とともにデザインする事で、チーム意識ややりがいを持てるような組織の強化に取り組む。

重点目標

①障害者の地域生活を包括的に支援

分野・制度を越えた連携、徹底した意思決定支援

②相談支援事業の一元化による事業の強化

OJT 体制整備、ICT を活用した業務整理、安定経営

③ピアサポートの推進

支援の協働、環境整備

④災害・感染対策の強化と地域共同による事業展開

防災訓練、行事参加、地域連携会議の実施、地域・圏域自立支援協議会への参画

⑤キャリアデザイン活用と組織力強化により、人材確保対策を促進

活動の発信機能の整備、キャリアの評価、組織管理体制整備

(1) 相談支援・地域活動支援センター事業

① 誰もが安心して自分らしく暮らせるよう、地域とつながりながら幅広い支援を提供する

- ・障害の分野にとらわれず、専門性を高め多様な利用者を受け入れる
- ・職員全員が意思決定支援を学び合い、定期的に振り返りの場を持つ
- ・医療・教育・行政と連携し、生活全般を支える包括的な支援を展開

② 働きやすさと質の高い支援を両立し、持続可能な事業を育てる

- ・相談支援事業を一元化し、安定した経営を実現
- ・OJT や情報共有を通じて、チーム全体で力を高める仕組みを整備
- ・ICT を活用して事務を効率化し、利用者支援に集中できる環境をつくる

③ 仲間と共に成長し、経験を生かした支え合いの輪を広げる

- ・ピアスタッフと専門職の役割を振り返り、医療機関とも協力体制を築く
- ・活動を積極的に発信し、入職者（仲間）を迎え入れる仕組みを整える
- ・資格や経験を正しく評価し、長く活躍できるキャリアを築く

④ 地域活動支援センター事業の更なる充実と進化

- ・地域のニーズを的確に把握し、サービスの狭間やメンタルヘルス等の問題・課題を抱えながらも公的なサービス等につながりにくい方々に対しても、安心して参加できる開かれた活動拠点を提供する

(2) グループホーム（共同生活援助事業）

個人にあった支援ができるように職員間で情報共有し、意思決定支援ガイドラインに沿った支援を行えるよう研修機会を設け、職員会議の際には随時支援の振り返りを行う。

感染及び防災対策を随時見直し、事業継続可能な体制を構築するとともに、利用者・職員が安心して過ごせる職場環境を整備する。

地域での祭りや清掃活動、防災訓練などに参加し、地域住民としての役割を果たすと共に、地域連携推進会議を通して事業所を知っていたき、運営について広く助言を求める。

(3) 就労支援事業（B型）

- ##### ① 利用者が安心安定して利用継続できるよう、ピアスタッフや関係機関との連携を図りつつ、個別の特性に応じた支援体制を築く

- ② 職員は研修参加や事業所内での勉強会を通じて自己研鑽に励み、障害特性や就労支援の理解を深めるとともに、ハラスメント及び虐待の防止に努める。また被災時や感染拡大の際の事業所運営についても改めて検討していく
- ③ 市の社会福祉大会など地域活動に積極的に参画し、自主製品の売り上げ及び工賃向上に努めるとともに、障害者福祉に関する普及啓発に取り組む

2. 各事業所 事業目標

【共同生活援助】

グループホーム コーポ狩野

- ① 利用者の主体性や個別性を重視しながら、スタッフ間の支援の方向性を統一出来るよう、申し送りやスタッフミーティングを有効活用する
- ② 感染症や災害に対する BCP 研修や訓練を活きたものとし、利用者の暮らしを守ることに備える
- ③ 地域の清掃活動や防災訓練などに参加し、地域住民としての役割を果たすと共に、運営について知ってもらう

グループホーム はまゆう寮・カーサ岡の宮

- ① 利用者の主体性や個別性を重視しながら、スタッフ間の支援の方向性を統一出来るよう、申し送りや支援会議を有効活用する
- ② 感染症や災害に対する BCP 研修や訓練を活きたものとし、利用者の暮らしを守ることに備える
- ③ 地域のニーズを把握し、それに応えられるよう課題整理を行う

【相談支援事業

・地域活動支援センター】

サポートセンターなかせ

- ① 地域生活を中心とした意思決定支援と関係機関との連携の連動を意識した積極的な個別支援
- ② 自事業所、法人それぞれの枠組みでの相談支援事業所としての体制の整備
- ③ 地域移行支援、自立生活援助も含めたピアスタッフ

フとの協働への働きかけ

- ④ 災害時も含めた遠隔地における職員間の連携の体制整備、強化
- ⑤ 個々の経験年数におけるキャリア形成を意識した日々の普段業務の取り組み

サポートセンターりりぶ

- ① 地域の限られた資源を最大限活かしながら利用者のくらしを支援する
- ② 相談、地活共に精神障害者、メンタルに不調を伴う方にとって必要な資源の一つと思ってもらえるよう発信する
- ③ 利用者が主体となってプログラムの企画、運営を一緒に行えるように努める

サポートセンターひまり

- ① 職員間のコミュニケーションを積極的に行い、制度理解・様々な情報の共有を行うことで、相談員としてのアンテナを高く持てるようにする。
- ② 事業所内で定期的に事例検討を行い、地域課題の抽出や支援力の向上など事業所全体のスキルアップを図っていく。
- ③ 前年度のピアスタッフとの協働を活かしながら、積極的に意図的なケース介入をしていく。
- ④ 自協で行っている災害対策の取り組みに積極的に参画していく。

サポートセンターゆめワーク

- ① 地域やピアスタッフと協働しながら、障害分野にとらわれず、幅広い支援を提供する
- ② 自己研鑽に励み、障害特性や社会資源への理解を深め、虐待防止に努める
- ③ 地域活動支援センター機能の充実を図り、地域の拠点となるよう、魅力ある事業所づくりに取り組む

【就労継続支援 B 型】

田方・ゆめワーク

- ① 利用者が安心安定して利用継続できるよう、個別の特性に応じた支援体制を築く
- ② 自己研鑽に励み、障害特性や社会資源への理解を深め、虐待防止に努める

- ③創意工夫し、自主製品の売上向上及び工賃向上に努める

かのん

- ①利用者が安全、継続して通所ができるように事業所内の環境整備と作業内容の再検討を進めていく
- ②職場内研修を実施し、職員のスキルアップと感染対策の強化を目指す

ワークショップまごころ

- ① 作業提供の安定を図り、利用者が安心して取り組める環境を整える
- ② 職員間で情報を共有し、利用者が望む暮らしに近づけるようサービスを提供する

令和 7 年度版 社会復帰事業部 年報

2026（令和 8）年 7 月発行

発行 公益財団法人復康会 社会復帰事業部
〒410 - 0811 静岡県沼津市中瀬町 17-11